

阪神高速の交通管制システム Q&A

Q 情報板の読み方を教えて？

A 渋滞や障害情報をリアルタイムで確認することができます。

阪神高速の入口手前や本線上に設置している情報板では、目的地までの所要時間、突発的な障害情報など、お客さまの運転に役立つさまざまな情報をリアルタイムで提供しています。走行中でも一目で認識できるよう、文字以外にもアイコン表示や文字の色などで、より詳しい情報提供に努めています。



所要時間情報	通常	所要時間	色
通常	通常	通常	緑色
通常	通常の3倍未満	通常	橙色
通常	通常の3倍以上	通常	赤色

※「通常」とは制限速度で走行した場合の所要時間

- 1 路線名や地点名を表示し、「渋滞」「事故」などの障害や「通行止め」などの規制情報を表示。
- 2 今後所要時間が増加する傾向にある時は、赤い三角印▲のアイコンを表示。
- 3 道路の混み具合に応じて、所要時間の表示色を変えています。

Q 災害などで、交通管制システムが機能しなくなることはないの？

A 大阪と神戸で相互にバックアップし、補完し合っています。

関西の生活・産業を支える社会インフラとして、有事の際であっても、安全・安心・快適な高速道路サービスの提供ができるよう、相互バックアップ機能を構築し、被災エリアの運用を他方でも行えるように整備しています。



Q いつから交通管制システムが使われているの？

A 1969年に初代交通管制システムが導入されました。

高度経済成長期に初めて阪神高速が開通して以降、深刻化する道路交通課題を解決すべく、1969年(昭和44年)に交通管制システムが開発・導入されました。当時国内に類例がなく、独自の調査研究から始まり、設計・施工・運用、そしてさらなる改良および拡張が現在まで継続的に行われてきました。



HI-TEX

High-tech traffic control system
for the Hanshin Expressway

阪神高速の交通管制システム

安全・安心・快適な
走行のために





「いつもの今日」を守り続ける、 阪神高速の交通管制システム。

血管のように関西都市圏を網羅し、日々多くのヒト・モノ・情報を円滑に集積・流動させる社会インフラとして重要な役割を担う、阪神高速道路ネットワーク。常に安全・安心・快適な高速道路ネットワークの提供を使命とし、この生活・産業の基盤となる複雑に行き交う都市高速道路の流れを一括管理しているのが、先進の交通管制システム『HI-TEX』です。「先進の道路サービスへ」の理念のもと、複雑な交通流を円滑に、そして、お客さまに寄り添い「いつもの今日」を守り続けています。

知りたい情報をリアルタイムで提供。 24時間体制で交通流を一括管理する『HI-TEX』。



データで見る阪神高速道路

交通量の多い阪神高速道路の複雑な道路ネットワーク。日々発生するさまざまな交通障害を、交通管制システム『HI-TEX』が解決します。

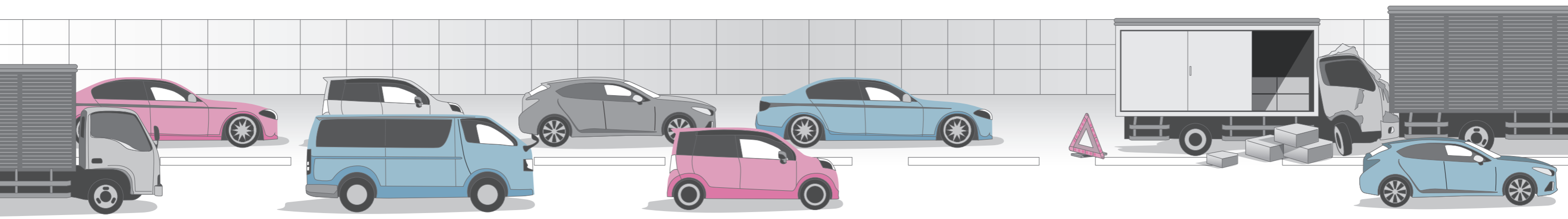
総延長
(2019年度時点)
258.1 km

1日の走行台数
(2019年度時点)
約71万台/日

平均渋滞量(平日)
(2019年度時点)
約240 km・時/日

落下物処理件数
(2019年度時点)
約18,000件/年

事故件数
(2019年度時点)
約4,700件/年



私たちがいつも見ている

高速道路の「風景」に。

高速道路上でいつも何気なく目にしている、情報板やカメラなどの機器たち。

目的地までの所要時間やルート変更などで参考にしている情報板以外にも、安全・安心・快適に走行できるように、さまざまな役割と機能が備わっています。私たちがいつも見ている風景の中にある、高速道路上に設置されたたくさんの機器とそれぞれの役割についてご紹介します。

交通流監視カメラ



阪神高速の全路線上に1km毎、約460台を設置。ほぼ360度回転、ズームアップができる高性能の交通流監視カメラ。車の流れや事故など道路上の状況を確認しています。

非常電話



高速道路上での事故・落下物・災害などの非常時に、交通管制室へ直接連絡することができる非常電話。非常時に車を駐車できる非常駐車帯(300mごとに設置)に併設され、年中無休、24時間365日体制で受け付けています。

情報板



渋滞区間や目的地までの所要時間など、運転に役立つ情報をリアルタイムで教えてくれる情報板。設置場所によりさまざまなタイプがありますが、共通して走行中のお客さまに負担がなく、一目で判別できるように表示しています。

新機能

事故リスク情報の提供で、より安全な運転をサポート

事故の危険性が高まっている区間で事故リスク情報を提供しています。事故削減を目的に、いま事故が起きそうな区間をリアルタイムで推定し、注意を喚起。事故の抑制を促し、より安全な道路サービスを実現しています。

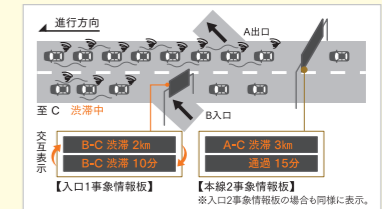
情報板での提供文言(注意喚起情報)

※事故リスク値が一定水準以上となった場合に本線情報板で提供

	水準①: 問題なし	水準②: 注意が必要	水準③: 最大限注意が必要
追突事故	-	追突多発区間 前方注意	追突多発区間 前方注意
車両接触事故	-	追突多発区間 車線変更	追突多発区間 車線変更
施設接触事故	-	追突多発区間 速度低下	追突多発区間 速度低下

運転に役立つ情報の充実化で、より快適な運転をサポート

渋滞の長さはもちろん、新たに渋滞通過時間や車線別情報、事故処理状況も提供できるようになりました。目的地までの最適なルート選択、到着時間の予測、事故や渋滞などの障害の回避において、お客さまの運転に役立つ情報を提供していきます。



車両検知器



交通量や渋滞の長さ、所要時間の計測に必要な情報を収集する車両検知器。主に追越車線に500m間隔で設置しています。道路上の急激な変化も細やかに検知し、迅速な情報提供と現場対応に役立っています。

ETC2.0 サービス

阪神高速上の約140カ所(全国約1,600カ所)に設置されたアンテナから、走行中のお客さまへ落下物などの注意喚起や走行経路の情報などさまざまな情報を提供しています。



私たちがいつも見ている 高速道路の「裏側」に。

渋滞、事故や落下物などの障害が発生したとき、関連する情報が情報板に表示されたり、黄色のパトロールカーが現場に駆けつけるなど、何気なく見ていた高速道路の風景。その裏側では、膨大なデータから今後の交通状況を予見し、24時間365日体制で高速道路の安全を見守る「交通管制システム」と交通管制員により、さまざまな措置が講じられています。異常時はもちろん、常に安全・安心・快適に高速道路が利用できるよう重要な役割を担う「交通管制室」と「現場対応」についてご紹介します。

交通管制室

交通量や天候などさまざまな要因で、刻一刻と変化する道路の状況。情報の「収集」から「処理」「提供」、二次被害のないよう迅速に「現場対応」するまで、高速道路を一貫してフォローしています。大きなグラフィックパネルを中心に、異常が起こっていないか管制員が24時間365日体制で監視し、渋滞や事故が起これば他の車に影響が出ないよう情報を発信するなど、安全・安心・快適に走行できる高速道路となるよう日々努めています。



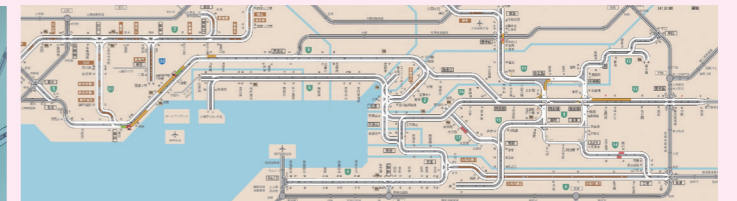
管制卓



交通流監視カメラ映像



交通管制室(大阪)



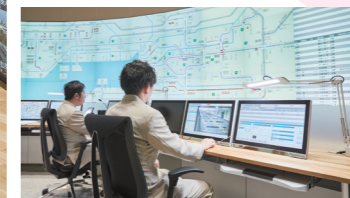
グラフィックパネル(路線図)



交通管制室(神戸)



コンピュータ室



交通管制のようす



交通管制のようす

現場対応



交通状況の把握、異常事態の早期発見など、より詳細な道路の状況や環境を知るため全路線を巡回しています。大阪・神戸エリアでそれぞれおおむね2時間に1回、24時間365日体制で行われています。また、車載カメラやタブレットで交通管制室と情報をリアルタイムで共有し、緊急時は交通管制室からの指示で現場に急行し対応、交通規制や整理誘導も行っています。

